

「芸小と山の匠たち」を訪問しました

6月18日(火)7:00にレンタカーで府中町のマツダ(株)を出発し、広島高速、山陽自動車道、中国自動車道を経て、芸北小学校に8:30頃到着しました。小学校で國本校長先生にお話しを伺った後、先生と一緒に5~6年生27名の待つオークガーデン奥山へ行きました。現地では、北広島町の白川学芸員やNPO西中国山地自然史研究会の方々が先生方と一緒に子どもたちの指導をされました。

子どもたちは、学校からバスで現地に行き、作業及び注意事項の説明を受け、既に倒してある木を班に分かれて鋸で一定の長さに切り、軽トラに積み込んでいきます。切り出した木はせどやま市場で計量を受け、重量に見合うせどやま券を受け取り、学校へ戻りました。



木を切っているところ(5人1班)



現地での振り返り



木を運んでいるところ



せどやま市場での計量の様子

<芸小と山の匠たち>

北広島町では、町民が共有林の木を切って持ち込むことで薪を確保しています。持ち込んだ木は重量に応じて地域通貨である「せどやま券」と交換されるというしくみです。芸小と山の匠たちの取り組みは、このしくみを使って、子供たちに地元の自然に馴染むと同時に、里山の管理や労働の重要性、その対価でものを購入することを学ばせるものです。

先生方と山の匠たちとの連携は絶妙で、大人は手出し・口出しを極力せずに見守り、6年生が5年生をうまくリードしていたのには大変感心しました。作業終了後の振り返りは子どもだけでなく、大人も別途行っており、安全と取組への改善意識の高さを感じました。